


サバティカル期間における研究経過・成果報告書

令和1年5月16日	
国立大学法人茨城大学長 殿	
所属・職名 人文社会科学部・准教授	
氏名 長田 華子 	
下記のとおり、サバティカル期間が満了しましたので、研究経過・成果等を提出いたします。	
サバティカル制度を利用した期間	2018年4月1日～2019年3月31日 (2018年4月9日～2019年3月26日:英国ロンドン在住、受け入れ先:ロンドン経済政治学院南アジアセンター)
①研究経過について (利用期間を月単位などに区分して、具体的な研究経過を記入して下さい。)	<p>4月中旬～5月初旬: 5月8日の国際会議で研究報告するための準備。また日本における外国人労働者に関する原稿の校正作業。</p> <p>5月中旬～6月初旬: 6月8日、9日にバングラデシュ研究ネットワークの年次会議、「After Rana Plaza」セッションで司会・討論者を務めることとなり、研究報告する研究者の論文を講読、コメントの検討。</p> <p>6月初旬～6月下旬: 6月26日のブリティッシュアカデミーでのワークショップに招待、研究報告を実施。そのための報告準備。</p> <p>7月～9月中旬: 日本経済評論社からの依頼原稿(日本語論文)の執筆、バングラデシュの縫製労働者に関する英語論文(Journal of Interdisciplinary Economics)の執筆。</p> <p>9月中旬～11月初旬: 「労働力の女性化」やグローバリゼーションとジェンダーに関する論文の収集、講読。また11月18日～12月1日まで実施するインド西ベンガル州の縫製産業調査にかかわる準備。特にインド経済の動向、縫製産業に関する研究の講読。</p> <p>11月18日～12月1日: インド西ベンガル州での縫製産業調査(科研費基盤A海外学術調査・研究代表者神戸大学経済経営研究所・佐藤隆広教授、科研費若手研究・研究代表者・長田華子)。</p> <p>12月初旬～中旬: インド西ベンガル州で実施した縫製産業調査の結果の整理、まとめ。</p> <p>12月中旬～1月下旬: 1月27日～2月8日まで実施するインドIT-BPO調査の準備。文献の収集、講読に加えて、調査先への調査依頼など。</p> <p>1月27日～2月8日: インド・デリー、バンガロールでのIT-BPO産業と労働実態調査(科研費基盤B・研究代表者獨協大学・堀芳枝)。</p> <p>2月初旬～3月中旬: 日本比較経営学会第44回大会(2019年5月11日、12日)の統一論題で報告するための予稿集の執筆。</p> <p>1月初旬～3月下旬: ロンドン経済政治学院のNaila Kabeer氏によるフェミニスト経済学の講義、グローバリゼーション・ジェンダー・開発の講義を聴講。関連文献の収集、講読。</p>

<p>②研究成果について (目標の達成状況及び研究成果の公表予定について記入して下さい。)</p>	<p>◆学会発表・国際会議発表</p> <p>1) Hanako Nagata, “Bangladeshi Ready-Made Garment Industry: Female Workers’ Skill, Wage and Household/ Householding - The Case of a Japanese Multinational Company’s International Transfer”, Edinburgh-Kobe Dialogue on the Economic Development in South Asia, 4th May 2018, Heriot-Watt University.</p> <p>2) Hanako Nagata, “Bangladeshi Ready-Made Garment Industry and Female Workers: Overview from the Birth of the Industry to the Rana Plaza Disaster,” the British Academy workshop, in the three-year IPM programme on Inclusive, Smart and Sustainable Cities run jointly by PB Anand at the University of Bradford and Prof Chella Rajan at IIT Madras, Chennai, India, 26th June 2018, British Academy.</p> <p>3) Hanako Nagata, Discussant, Session: <i>After Rana Plaza</i>, Bangladesh Studies Network Meeting, 7th June 2018, University of Edinburgh.</p> <p>◆論文</p> <p>1) 長田華子、「作り手が報われる社会を目指して—安価な衣服の生産拠点バングラデシュの労働実態から」、『連合総研レポート』、2018年4月号、No.336、4—8頁。(オープンアクセス可)</p> <p>2) 長田華子、「日本製の洋服づくりを支える人々—縫製工場における外国人労働者」、駒井洋監修、津崎克彦編著、『産業構造の変化と外国人労働者』、明石書店、215—236頁、2018年。</p> <p>3) 長田華子、「生産領域のグローバル化のジェンダー分析—バングラデシュの縫製産業を事例に」、浅田進史・榎一江・竹田泉、『グローバル経済史にジェンダー視点を接続する』、日本経済評論社、2018年8月刊行予定(※2019年5月時点、未刊)</p> <p>4) Hanako Nagata, “Female Worker’s Skills, Wages, and Householding in Bangladesh’s Readymade garment Industry: The Case of a Japanese Multinational Company”, <i>Journal of Interdisciplinary Economics</i>, 2020年1月刊行予定。</p> <p>◆その他 朝日新聞社、NHK への取材協力</p>
--	--